

## 高年齢者のてんかん

赤松 直樹<sup>1)</sup> 田中 章浩<sup>2)</sup> 山野 光彦<sup>3)</sup> 辻 貞俊<sup>1)</sup>

要旨：高年齢者のてんかんの有病率，診療実態を明らかにすることを目的として調査をおこなった。65歳以上の長期入院患者約738名の調査では，てんかん有病率が11.2%であった。患者70名の大学病院てんかん専門外来での調査では，発作型は複雑部分発作が多く，原因は脳血管障害をはじめとする器質性病変が半数であった。器質性病変のない側頭葉てんかんが半数を占めた。脳波は66.7%の患者でてんかん性放電をみとめ，診断に有用であった。抗てんかん薬治療で発作が寛解する患者が多く，単剤処方が多くを占めた。

(臨床神経 2014;54:1146-1147)

Key words：てんかん，高年齢者，有病率

## 目的

高年齢者てんかんの有病率および臨床的特徴を明らかにする。

## 方法

福岡県内の高年齢者の長期入院を受け入れている2病院の入院患者を，平成23年12月1日時点でのてんかん有病率を，診療録をもとに調査した。転院（入院）の紹介状に，65歳以降に発症したてんかんもしくは痙攣の診断で抗てんかん薬治療中の患者および入院中にてんかん発作を生じた患者数を診療録にもとづいて調査した。大学病院神経内科で2005年3月1日から2011年6月30日に外来を受診した65歳以上で初発したてんかん患者計70名について，てんかん診断，発作型，病因を診療録をもちいて後方視的に調査した<sup>1)</sup>。

## 結果

A病院：入院患者数は459名，平均年齢は82.8歳であった。そのうち，てんかん治療を受けている患者は59名(12.9%)，平均年齢は77.1歳であった。B病院：入院患者数は243名，平均年齢は79.8歳であった。そのうち，てんかん治療を受けている患者は24名(9.9%)，平均年齢は69.7歳であった。2病院合計すると，738名の入院患者で83名(11.2%)がてんかんと診断され治療をうけていた。

てんかん外来通院中の高齢初発てんかん患者70名(男性37名，女性33名)を調査したところ，てんかん発症年齢は73.1 ± 6.9 (mean ± SD)。発作型は複雑部分発作が33名(47.1%)と最も多く，次いで二次性全般化発作を28名

(40.0%)みとめた。てんかん症候群では側頭葉てんかんが50名(71.4%)であった。病因は原因がわかるものでは脳血管障害が17%と最も多く，次いで脳炎などの炎症性疾患，認知症など変性疾患であった。器質的異常をとまなわない(画像検査において病変をみとめない)症例が最も多く，37例(52.8%)であった。脳波検査は72.9%にてんかん性放電をみとめた。治療は，62名に薬物療法をおこなっており，単剤療法が49名(79.0%)，多剤療法が13名(21.0%) (2剤12名，3剤1名)であり，抗てんかん薬はカルバマゼピンが最も多く使用された。1年以上発作をみとめないものは52名であった。

以上より高齢発症てんかんは側頭葉てんかんが最も多く，発作型は複雑部分発作が最多，次いで二次性全般化発作が多い。大学病院であるため紹介患者が多いというバイアスがあるが，てんかんの病因は明らかな器質的以上をとまなわないものが多く治療反応性が高いことを特徴としていた。治療反応性の良さは器質的病変をもたないことが，発作が軽く，また治療反応性が良いことに関係している可能性が考えられる。

## 考察

高齢者の入院施設でのてんかん有病率は9.9~12.9%と予想以上に高率であった。厚生労働省医療施設(動態)調査・病院報告の概況2001年によると，65歳以上の入院総数は84万人であるので，65歳以上で入院している人ではてんかん患者は8~11万人と推定される。1999年の小西らの報告では，介護老人保健・福祉施設入所者762名でのてんかん有病率を6.8%と報告している。いわゆる老人病院の入院患者ではさら

<sup>1)</sup> 国際医療福祉大学福岡保健医療学部〔〒831-8501 福岡県大川市大字榎津137-1〕

<sup>2)</sup> 京都府立医科大学神経内科

<sup>3)</sup> JR東海静岡健康管理センター

(受付日：2014年5月24日)

にてんかん有病率が高いことが今回の調査で明らかになった。2010年時点では、日本の高齢化率（65歳以上の人口）は23.1%（2944万人）でこのうちの、てんかん有病率を調査する必要がある。2012年度は、地域住民でのてんかん有病率調査を予定している。

てんかん専門外来での調査では、高齢てんかんの原因としては従来から知られている脳血管障害をはじめとする獲得性の器質病変が原因の半数を占めた。発作型は複雑部分発作と二次性全般化発作が各々45%を占めた。焦点病変をとまなわなない側頭葉てんかんが約半数を占め、今後高齢化にともない、このような従来にない型のてんかんが増加する可能性がある。今後このコホートでの治療効果、予後についても調査する予定である。

### 結論

高齢者初発てんかんの臨床的特徴と高齢者の入院患者での有病率を本研究では明らかにした。入院高齢者では、てんか

ん有病率が10%を超えており多数の患者が存在することがされた。今後は住民調査をふくめた研究で日本人での高齢者てんかんの有病率研究が必要とされる。

高齢者てんかんの診療は、ときに診断が困難であること、加齢にともなう薬理学的側面、併存症や併用薬の影響などさまざまな問題を考慮しなければならないが、一方で、とくに高齢者初発てんかんは抗てんかん薬による反応性が良く、比較的低用量でてんかん発作を抑制できることも多いことが示された。治療に当たっては心理的な側面にも十分配慮しながら、診療を進めていくことが必要である。

※本論文に関連し、開示すべきCOI状態にある企業、組織、団体はいずれも有りません。

### 文 献

- 1) Tanaka A, Akamatsu N, Shouzaki T, et al. Clinical characteristics and treatment responses in new-onset epilepsy in the elderly. *Seizure* 2013;22:772-775.

### Abstract

#### Epilepsy in the elderly

Naoki Akamatsu, M.D., Ph.D.<sup>1)</sup>, Akihiro Tanaka, M.D., Ph.D.<sup>2)</sup>,  
Mitsuhiko Yamano, M.D., Ph.D.<sup>3)</sup> and Sadatoshi Tsuji, M.D., Ph.D.<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup>Department of Medical Technology and Sciences, School of Medical Sciences at Fukuoka,  
International University of Health and Welfare

<sup>2)</sup>Department of Neurology, Kyoto Prefectural University of Medicine

<sup>3)</sup>Shizuoka Health Center, Central Japan Railway Company

As the elderly constitute the most rapidly growing population, epilepsy in this group is an important health issue worldwide. We surveyed the prevalence of epilepsy in two hospitals for elderly citizens in Fukuoka, Japan. The study revealed that the prevalence of epilepsy was 11.2% in 743 studied hospitalized patients. We identified 70 patients who developed epilepsy after the age of 65 years at the outpatient clinic in a university affiliated hospital. Complex partial seizures (CPS) without secondarily generalization were most frequent. The most frequent diagnosis was temporal lobe epilepsy. Etiological diagnosis was possible in nearly 50% patients, including those with cerebrovascular disease. Interictal EEG revealed focal epileptiform discharges in 66.7% of patients. Forty-two patients were on antiepileptic monotherapy and 52 patients had been seizure-free for more than 1 year. Epileptogenicity was relatively low in elderly patients and they responded well to antiepileptic medication.

(Clin Neurol 2014;54:1146-1147)

**Key words:** epilepsy, elderly, prevalence